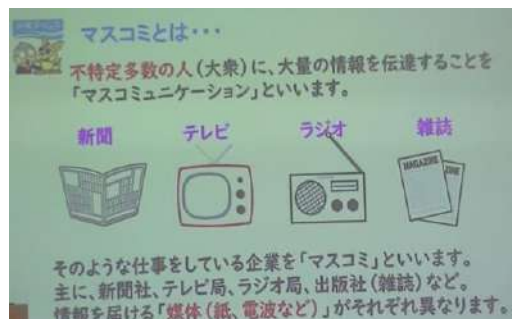


また、沖縄ならではの告別式情報のアプリ開発やVoicyを使った音声メディアでの配信、地域の物産を紹介したり、子供の貧困問題解決に向けたプロジェクトなど、紙面を超えた仕事もあることがわかりました。



海勢頭氏は、新聞社を「職種のデパート」と表し、編集記者以外にも、企画事業、紙面制作、広告営業、販売購読、出版、デザイン、システム、新ビジネスと幅広い分野で活躍の場があることを示しました。

新聞社で求められる人物像は「変化をおそれず」「挑戦し続ける」「新しい“新聞”のカタチを」「ともに創り出す人」と伝え、記者職に限定せずとも「毎日どこか違うところに行って、毎日違う人に会いたい」というように自分の興味や強みが明確だと仕事を創り出すことができる場所であることも教えてくれました。



参加者からは「記事を書く時のアポはどのように取るのか」「正確な情報だとどうして言えるのか」「イベントの企画を新聞社はどこまで行うのか」など幅広い質問があがり、海勢頭氏は一つ一つ丁寧に答えてくださいました。

参加者のコメント



- 新聞を作る事だけでなくいろんな事をやっていて、新聞にのせる1つの記事にたいしてもやる事がたくさんある事におどろいた。
- マスコミ業界の固いイメージが変わりました。話を聞くと楽しそうだと感じました。
- 新聞社の中にも色々な業種、働き方があって、すごくおもしろいなと感じました。初めて知ることが多かったので参加して良かったです。ありがとうございました。

「業界セミナー」は毎月開催！

キャリアセンターのホームページからチェックできます。

センター内の書籍コーナーでは、仕事選びの参考になる本も

閲覧できます（実は…選書に自信アリ!!!）。

この夏、新たなおシゴトとの出会いがあるかも！？

気軽にお越しくださいね♪

